

第一回 船舶情報に関する有識者会議  
本会議開催の位置づけと目的

2016年1月15日

---

# 目的と背景

## 目的

本会議では、船舶情報に何の情報は何のために用いられているのかといった、船舶に関わる情報の全体像を把握することを目的とする。

具体的には、船舶情報に関わる事業者が、現在どのような情報を何のために用いているかという情報活用全体を調査し、利用障壁となっている課題等を整理する。そして、将来の船舶に関わる情報提供のあり方を検討する。

## 背景

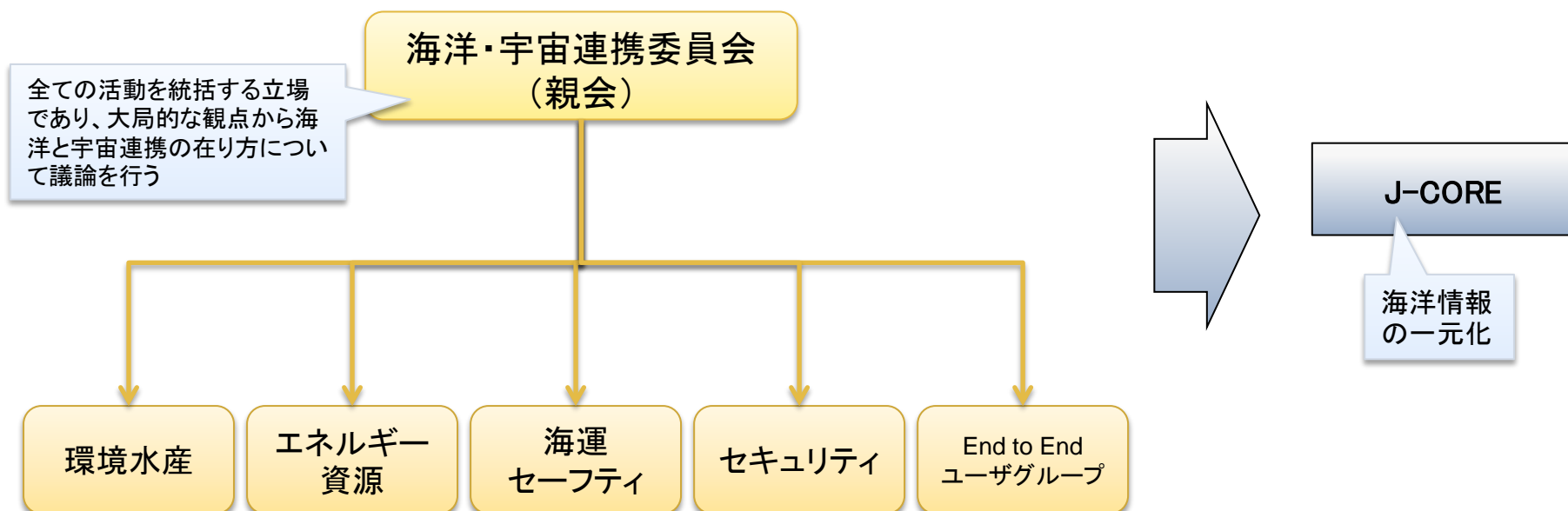
海洋・宇宙連携委員会のこれまでの活動から、船舶の動静を把握することに対して、民間・行政双方の注目が高いと推察されている。

そして船舶動静情報の収集手段として、衛星観測は沿岸域等に限定せずに船舶の動静情報を収集するセンサとして注目されている。

一方で、これまで海洋・宇宙連携委員会では船舶に関わる情報の在り方についての議論は行われてこなかった。そこで、まずは船舶情報に関わる情報の全体像を把握する。

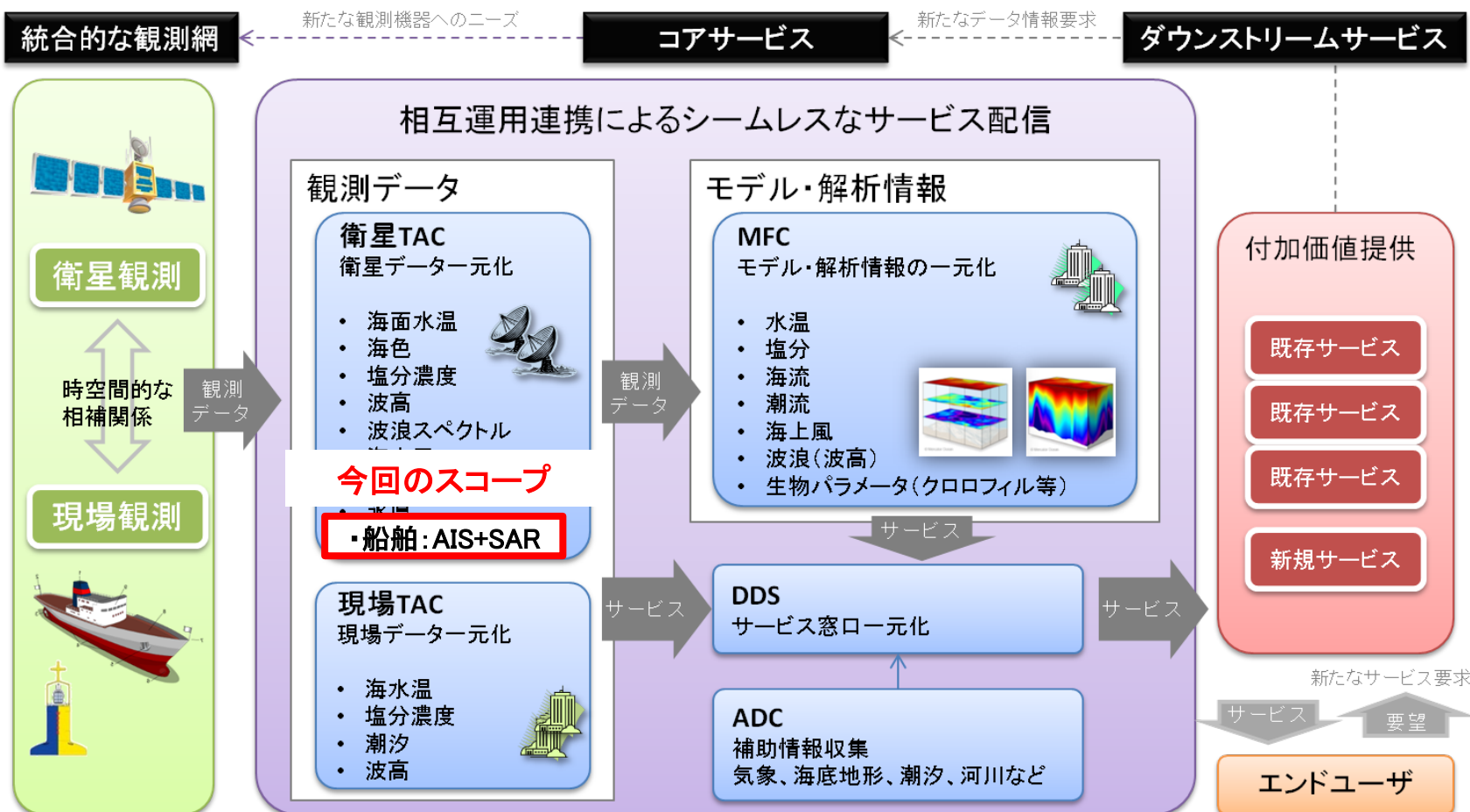
# 海洋・宇宙連携の検討体制

- 海洋と宇宙が連携する具体的な施策について検討を行うため平成20年に海洋・宇宙連携委員会を設置し、環境水産、エネルギー資源、海運セーフティ、セキュリティ、E2Eユーザーグループという有識者コミュニティを形成し検討活動を実施してきた
- これまでの検討から、海洋情報の一元化による効果が明らかとなり、現在は海洋情報を一元化し提供するサービス(J-CORE)実現に向けた具体的な検討を行っている



# J-COREと船舶情報(今回検討内容)について

- 海洋情報一元化を目指すJ-CORE検討は下記の様な全体像を想定し、検討を進めている
- これまで船舶情報の在り方に関する議論は行われてこなかったため、本会議では船舶情報に関する検討を行う



TAC: Thematic Assembly Center  
MFC: Monitoring and Forecasting Center  
DDS: Data Distribution Service  
ADC: Ancillary Data Center

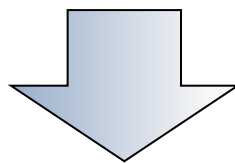


# 本会議のすすめ方について

---

**まずは船舶に関する情報の全体像の把握を行いたい**

「何の情報を」「何のために使っているか」



## 【今回の議論の流れ】

1. 現在検討している船舶プロダクトについて
  - ・検討中の船舶プロダクトに関するご意見
2. 船舶関連情報利用者について
  - ・想定している船舶情報利用事業者の妥当性
3. 船舶に関わる情報の全体像
  - ・船舶に関わる情報には何があるのか
  - ・情報からどのような情報を読取っているのか
  - ・利用にあたっての阻害要因や課題は何か
4. 次回以降の予定の提示